



全労連 憲法闘争ニュース速報版

全国労働組合総連合 TEL 03-5842-5610 FAX 03-5842-5620

No.2

「戦争法案今すぐ廃案！」 国会前連日座り込み初日 のべ 1200 人

6月15日(月)、「総がかり行動実行委員会」の提起による国会前座り込み行動がスタートしました。24日の会期末(予定日)まで平日、10時から17時まで議員会館前に座ります。

初日の15日、10時からの集会には370人、12時からの集会には600人、夕方4時半からの集会には500人が参加、のべ1200人が座り込みました。主催者の想定を大きく超える参加者で用意したイスが足りなくなるというハプニングも。13日の「6・13大集会」や14日の「国会包囲総がかり行動」からの引き続きの参加者も多く、「連日ご苦労様！」の声が飛び交います。

「じっとしてはいられない」といわて労連からの参加者。「午後から復興共同センターの要請行動。午前だけでも座ります。原発問題でも、戦争法案でも、国民の意見をあまりに無視する安倍政権は許せない。」と福島からの参加者。全国各地から参加しています。

全教は、子どもの笑顔が描かれた横断幕を持ち、なんと22人が参加。愛知や岐阜からの参加者もいました。この戦争法案が提出されてから、各地の学校で「先生、僕たち戦争に行かなくちゃいけないの？」と、子どもたちが不安そうな眼で聞いてくるそうです。「大丈夫だよ。憲法9条があるから」と答えながら、「今、頑張らなくちゃ」と思うそうです。

JMIUは、14人の参加。「今、平和と雇用が守られるかどうか歴史的岐路に立っている」と、旗のもと、ずらっと座りました。国公労連は、ゴジラが描かれた巨大な横断幕の下に陣取ります。連日、ゴジラを国会前に出現させるそうです。神奈川・千葉・埼玉の皆さんも、そして、自治労連・医労連・生協労連・建交労・自交総連・映演労連も旗が並びます。全国一般は、大阪から着物姿で参加の組合員。帯は、「安倍首相に怒ってるゾウ！」という意味で「象」が刺しゅうされていました。ステキでした！

午後の時間を使って議員要請も行われました。要請行動にはのべ約100人が参加し、150人の衆議院議員への働きかけを行いました。ほとんどは秘書の応対でしたが、「名古屋では反対運動が盛り上がっている」(維新・牧義夫議員秘書)、「政府案には異論があるが提起されている方向性は必要。しかし『後方支援』は問題がある。国民の合意が必要であることはその通り。しかし党としての考えはある」(維新・小沢鋭仁議員秘書)、「党としての態度は決まっていないが、議員は反対の立場」(維新・太田和美議員秘書)、「『戦争法』というネーミングに反対。修正案を用意中だ」(維新・足立康夫議員秘書)、「賛否はどうあれ、時間をかけて議論しなければならない」(無所属・中村喜四郎議員秘書)、「政府は説明不足」(維新・鈴木義弘議員秘書)などの答えが返っています。

全労連から、冷たいお茶の差し入れもあり、楽しく座り込みが行われた1日目。私たちの運動が、安倍政権を追い詰めているという確信からか、明るく元気な座り込みになっています。このパワーで、会期延長なんかさせずに、憲法違反の戦争法案は廃案に追い込みましょう。24日まで、押して

押して押しまくる、攻勢的なたたかいをすすめましょう。

単産・地方のとrikumi

【和歌山県地評】

35000 セットの「戦争立法反対」要請ハガキ作成

4 月末に県地評、革新懇、安保破棄実行委員会、憲法共同センターの 4 団体で「戦争立法に反対するわかやま共同闘争本部」を立ち上げ、さっそく自民党、公明党あて「戦争立法反対」要請ハガキ運動に取り組んでいます。35000 セット作成しました。県内各地から届いたハガキには「二度と戦争はしないでください」など、どれも切実な願いが書かれています。

6 月 12 日（金）、闘争本部に集まったハガキ 608 枚を第一弾として自民党、公明党それぞれの県本部に提出しました。

対応に出た職員に趣旨を説明し、「安保法案に対する県民の声です。本部に届けてください」と訴えると、どちらの党の職員も「わかりました」と答え、本部への送付を約束しました

毎週金曜日はプラスタ宣言、月曜日は駅頭宣言

県地評は全労連作成の憲法宣伝流しテープを参考に、独自に CD を作成。地域労連でも CD を活用し宣伝行動にとりこんでいます。和歌山市内では毎日、和高教、県教組の宣伝カーで流し宣伝を行っています。

また毎週金曜日、宣伝用の CD を流しながら県庁前交差点で街頭宣伝にとりこんでいます。12 日は雨上がりで気温が急激に上がる中、7 団体 15 人が参加しました。

プラスタや横断幕を持ち、手を振っていると、ウンウンとうなずきながら通りすぎる運転手や、クラクションを鳴らして応える運転手がいました。手を振り返してくれる若い運送屋さんもいました。

世論調査では今国会での成立に八割の国民が反対していますが、街の反応も同じように感じられました。

不戦の決意 先人に誓う 新聞労連より

労使の枠を超え慰霊祭

沖縄戦で犠牲となった新聞関係者を偲ぶ「戦没新聞人の碑慰霊の集い」が 5 月 17 日、那覇市旭ヶ丘公園の「戦没新聞人の碑」前で行われました。労使の枠を超え沖縄タイムスや琉球新報、朝日新聞、毎日新聞、共同通信、時事通信など各労組と社の代表ら約 150 人が参列し、戦後 70 年の節目に安全保障の歴史的転換となる「戦争法制」が閣議決定されるなか、報道・メディアの責務として「不戦」への決意を胸に刻みました。

沖縄地連の来間信也委員長が「今日こそ、戦争のために二度とペンをとらないという新聞人の覚悟が

問われている」と主催あいさつ。新聞労連の新崎盛吾委員長は「メディアに関わる者は戦争を防ぐためにいかにペンをとるか、カメラを取るか。そういう思いでこれから報道・メディアとしての役割をはたしていかなければならない」と決意をのべました。

慰霊祭の最後に「私たちは今、未来に平和をつなげていくため、報道に携わる者として、人々に正しい情報を伝えることの大切さを強く感じている。あらためて『戦争のために二度とペンをとらない、輪転機を回さない』ことを誓う」との「平和のちかい」を読み上げ、報道・メディアの責務として「不戦」への決意を胸に刻みました。

慰霊の集いは、日本マスコミ文化情報労組会議と沖縄マスコミ労協連帯行動「沖縄平和行進の一環として企画されました。